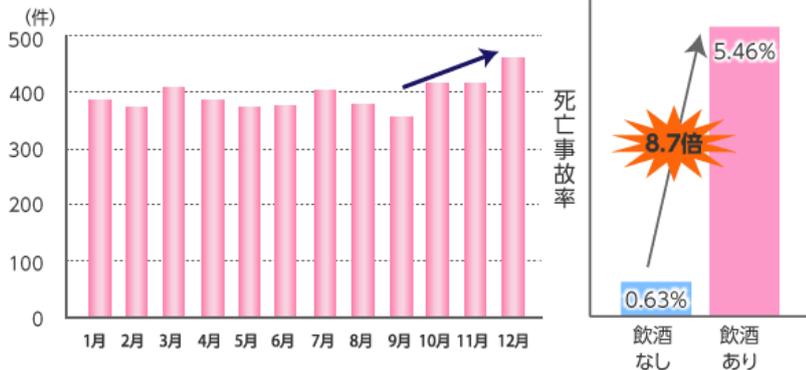


飲酒運転は、「しない」「させない」 ～「魔がさした」ではすまされない！！～

【月別飲酒運転の事故件数】H22～26平均値（全国）



飲酒運転の事故件数が、もっとも多いのは、12月です。また、飲酒運転による死亡事故率は、飲酒なしの8.7倍になります。事故のリスクが高まることを知っているにも関わらず、飲酒運転は後を絶ちません。

「政府広報オンライン資料」警視庁

【佐賀県の教職員飲酒運転交通事故 過去5年間の記録】

- H26.10.8 公立中学校 男性教諭 二日酔いで接触事故。そのまま立ち去る。
 - H27.2.6 県立学校 男性教諭56歳 飲酒後に人身事故。現場から立ち去る。(有罪判決懲役2年)
 - H27.4.15 県立学校 男性統括事務長58歳 飲酒後に物損事故。現場から立ち去る。
 - H27.11.17 男性講師32歳。体育大会振休日に飲酒後に人身事故。
 - H28.8.24 男性講師28歳。飲酒後に人身事故。
- ※ ●は、代行運転を待っていたのに起こしてしまった事案。すべて懲戒免職。

【懲戒処分】を受けた場合の損失額の試算

例) 教諭35歳が免職となった場合
※高等学校等教育職給料表 2-60

損失額

約1億9,300万円

～自分の人生だけでなく、家族や学校、地域からの信頼など、失うものは計り知れません。～

「信頼される教職員であるために
P54 ver.2」佐賀県教育委員会

運転免許証の有効期限は大丈夫ですか？

～「うっかりしていた」ではすまされない！！～

自動車運転免許証の更新期間は、誕生日の前後、それぞれ1か月です。更新せずに、時期を過ぎると免許の「失効」となります。「失効」した状態で運転すると「無免許運転」となります。

無免許運転で検挙された場合

- ・ 「故意」であれば25点減点（2年間の欠格期間）
- ・ 自覚したうえでの人身事故は、「逮捕」「報道」



無免許運転をした職員は、「免職」又は「停職」とする

「懲戒処分の指針」佐賀県教育委員会

☆キラリ☆ 教育活動に創意工夫を!

小中学校問わず、どの学校でも行われている教育活動があります。「キラリ」のコーナーでは、それらをテーマとして、創意工夫のある取組や効果的な取組をしていらっしゃる学校を紹介します。
第3回のテーマは「異年齢集団による交流」で、武雄市立武雄小学校の取組です。

武雄小学校『異年齢集団による交流』 ～大縄トライアル～

武雄小学校では、大縄トライアルと銘打ち、11月の水曜日の昼休み(30分間)に、縦割り班での8の字とびに取り組んでおられました。児童の主体性を引き出す3つの工夫を紹介します。

工夫① 子供の自治的な活動を取り入れる

進行は運動委員会が担当していました。取材した11月30日は3回目の大縄トライアルで、運動委員はそれまでの経験を生かして、自信をもって進行をしたり、タイムを測ったりしていました。

縦割り班の活動では、6年生が中心となって整列させたり、とぶ練習をさせたりしていました。

工夫② 縦割り班の活動が活性化する環境を作る

縦割り班ごとに3つの種目で競い合う児童会活動「わんぱくゲーム集会」があります。その種目の1つである縦割り班での8の字とびを、大縄トライアルに位置付けられていました。競争は意欲を高め、共通の目標をもたせ、活動の活性化につながります。

大縄トライアルに向けて、班ごとに一致団結して練習に取り組んでいました。6年生は昼休みに低学年の児童に声をかけて、タイミングやとぶ位置を優しく教えていました。2年生も、お兄さんお姉さんとして進んで1年生に教える姿も見られました。

工夫③ スポーツチャレンジとリンクさせる

武雄小学校は、佐賀県教育委員会保健体育課の事業であるスポーツチャレンジにエントリーしておられます。昨年度も参加され、6位に入賞されています。

廊下には記録表が掲示してあり、大縄トライアルの結果を記入してありました。成長が分かり、励みになることでしょう。



大縄トライアル



1年生にタイミングを教える6年生

		9	10	11	12	13	14	15	16
記録を日付	1	65	85	96	68	117	119	51	21
	2	67	128	131	85	51	62		
3	69	39	70	120	58	60			
4									
5									
6									

廊下に掲示してある記録表

児童の感想

1年生

- 最初はできなかったけど、とべるようになりました。
- (タイミング良く続けて大縄に入る上級生を見て)私もやってみようと思いました。

6年生

- 1・2年生がうまくとべないから昼休みに一緒に練習をしました。背中を優しく押して走り出すタイミングを教えたり、真ん中でとぶようにアドバイスしたりしました。とべたときの1年生の笑顔を見たときはうれしかったです。記録は131回から122回に下がったけど、記録は関係なく、学年も関係なく、なかよく助け合えたのがよかったです。

大縄の練習が予定されている日は、いつもは給食を食べるのが遅い低学年の児童も早く食べてしまうという話を先生方から聞きました。やる気満々ですね。6年生からは「教えたら、1・2年生はどんどん上手になったのでうれしかった。」という話も聞きました。

大縄トライアルにおいて意図的に児童の活躍の場を設定したり、他の取組と有機的に関連させたりすることで主体性を引き出されておられます。取組を通して体力を向上させるだけでなく、責任をもって役割を果たしたり、成長を喜び合ったり、共通の目標に向かって頑張ったり、一体感や所属感を感じたりすることが自然にできていました。活躍する優しい高学年に低学年はあこがれ、受け継がれていきます。児童を中心に据えた取組が素晴らしかったです。

中学校の生徒会活動も、学級や学年を超えて、異年齢の人とかかわるといった特質をもっています。場の設定や他の取組との関連等で、参考になればと思います。